

## 第2回 仙台市総合計画審議会市民の暮らし部会議事録

日 時	平成22年 8月19日（木） 16：30～18：30
会 場	仙台市役所 2階 第七委員会室
出席委員	足立千佳子委員、阿部一彦委員、内田幸雄委員、大村虔一委員、小松洋吉委員、佐竹久美子委員、鈴木由美委員、西澤啓文委員、針生英一委員、樋口稔夫委員、水野紀子委員、柳生聡子委員 [12名]
欠席委員	菊地昭一委員、庭野賀津子委員、永井幸夫委員 [3名]
事務局	山内企画調整局長、大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹、柳津総合計画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 基本計画（中間案）について (2) その他 3 閉会
配付資料	1 仙台市基本計画（中間案）第1章 総論・第2章 重点的な取り組み 2 仙台市基本計画（中間案）第3章 分野別計画 3 仙台市基本計画（中間案）第5章 総合計画の推進に向けて 4 基本構想・基本計画の全体構造

### 1 開会

小松洋吉部会長

それでは始めさせていただきたいと思います。ご出席たまわりまして大変ありがとうございます。ただいまから第2回市民の暮らし部会を開催させていただきます。

最初に本日の議事録署名委員をお願い申し上げたいと思います。恐縮ですがけれども阿部委員をお願いしたいと思います。

阿部一彦委員

はい。

小松洋吉部会長

どうぞよろしくお願いいたします。

議事に入りますが、その前に定足数の確認をお願いいたします。

梅内総合計画課長

本日の出席者でございますが、現在、12人の委員の方にご出席いただいておりますので、定足数を満たしていることをご報告申し上げます。

続きまして資料の確認をさせていただきます。お座席に、座席表、次第、資料一覧、

資料１～４、参考資料が１～３、追加資料といたしまして審議会のスケジュールを書きました追加資料がございます。そのほかに第１回審議会からの資料一式をつづりましたファイルを置かせていただいております。

よろしいでしょうか。

## ２ 議事

小松洋吉部会長

それでは議事に入らせていただきます。

前は基本計画の素案についてご協議いただきましたけれども、このたびは基本計画の中間案についてご協議いただきたいと思います。本日の会議の意見を取りまとめまして27日の審議会で報告する運びとなっております。

始めに、総合計画の策定作業の中での中間案の位置づけ、あるいは本日のこの協議のミッションをはっきりさせることが大切だと思っております。この点について追加資料もございますので、事務局からご説明のほどお願いいたします。

梅内総合計画課長

では、追加資料、審議会日程に基づきましてご説明させていただきます。

本日が第２回市民の暮らし部会でございます。こちらで基本構想・基本計画、基本計画の中間案についてご審議をいただきます。

８月末に中間案を取りまとめるということでございますので、27日金曜日に第５回審議会で基本構想・基本計画の中間案を決定したいと考えております。その後、パブリックコメント等、箱に囲んでおります市民参画事業を行ってまいります。８月28日、９月４日とフィールドワーク型ワークショップ「まち歩きフィールドcafe」、こちらには審議会委員の皆さんのうち、６名の先生にご協力をいただく予定でございます。９月10日からは中間案に対するパブリックコメント、中旬からは各界各層の有識者に対しまして中間案をお送りしてご意見を伺ってまいります。約500の有識者や団体にお送りする予定でございます。

９月末と10月末、今年は10月１日が国勢調査でございますので少し時期が別れてしまいますけれども、全12か所で意見交換会を予定してございます。また10月10日にはメディアテークを会場といたしまして、まちづくり市民フォーラムを実施してまいります。

中間案をまとめまして、９月に議会にも報告させていただきまして、委員会でもご議論いただきたいと思います。

そういう日程でございますので、昨日の部会でも同様でございましたけど、本日さまざまなご意見をいただきまして、中間案として反映できるものを極力反映し、もう少し時間をかけて最終案までの段階で検討すべきものにつきましては後日の対応とさせていただきたいと思っております。その後、10月26日に第３回市民の暮らし部会を予定しておりますけれども、それまでには各市民参画事業の日程がおおむね終わってございますので、そこで出たご意見などをご報告しながら中間案の修正を始めてまいりたいと思

ます。11月中旬には第4回部会、11月下旬には中間案の見直し案をいったん決定しまして、12月に開かれます審議会で議論していただくようにしたいと思っております。1月中旬には第7回審議会で答申案を決定できればと考えておりまして、1月下旬に正式に答申をいただく予定としてございます。

日程につきましては以上でございます。

小松洋吉部会長

審議会の日程についてのご説明でありました。

それでは、今日は盛りだくさんの資料が準備されております。

前は基本計画の素案でしたけれども、今回は中間案の素案が出されております。かなり分厚い資料がありますのである程度区切って議論を進めていきたいと思っております。

始めに資料1の「第1章 総論」「第2章 重点的な取り組み」について意見交換をお願いしたいと存じます。それでは、資料1について先に事務局からご説明をお願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは、資料1をご説明させていただきます。それに先立ちまして、参考資料3をご用意ください。

小松洋吉部会長

振り返りの方ですね。

梅内総合計画課長

はい。現行基本計画「仙台21プラン」の振り返りでございます。今回、総合計画の改定にあたりまして、第1回審議会にも21プラン期間内での各種の実施状況等について、数値等を出したところですが、今回中間案が取りまとまるということでございますので、各所の説明用に改めまして振り返りということで、これを取りまとめたものでございます。

表紙をお開きください。総括といたしまして21プラン全体の取りまとめをしてございます。四つの都市像に基づきまして市民協働、コンパクトシティ等の取組を進めてまいりました。これまで道路、公園、文化センター、メディアテーク等の各種施設の整備に取り組んでまいりましたし、地下鉄東西線等の長年の課題にも着手しているところでございます。また、緑地保全、百年の杜づくり等の自然環境保全に努めてまいりましたし、ごみリサイクル等も進めてまいったところでございます。この間、市民主導でやってまいりましたジャズフェス、プロスポーツ等の人気が高まりまして、仙台の都市個性づくりも進んできたものと考えてございます。観光・コンベンションの充実や各種の取組を進めてまいりましたけれども、全国的な景気の低迷などもございまして、市内総生産につきましては減少したところがございます。また市民協働等の分野につきましては、健

康づくり、地域における自立生活の促進、子育て支援の充実、男女共同参画の推進などを図ってまいりました。また市民サポートセンターを開館するなど、市民協働を進めてきたところでございます。21プランの期間内におきまして各区におきます基礎的な基盤整備についてはかなり進んだと思っております。今後は厳しい財政状況を踏まえまして、既存の基盤の有効活用、杜の都の都市環境を維持・向上させること、少子高齢化等の地域課題の対応に努めていく必要があると思っております。

簡単に数値の方でございます。4ページをお開きください。期間の開始されました平成10年、100万人に達しませんで99万7千人でした本市の人口も、昨年度末で103万4千人ということで増えてきておりますが、21プランの推計ですと年度末112万人ということでございましたので、当時の趨勢ほどは伸びないといったことになってございます。

7ページをご覧ください。健康意識の高まりもございまして、市内で基本健康診査を受診していただいている市民の数も順調に増えてきております。下にありますように高齢者の人口というのが増えてきて、18.4パーセントになってございます。

次、8ページでございます。介護保険等の制度創設がございましたので、要介護も10年と比べなかなか難しい部分がありますけれども、介護保険の浸透ということがございまして、要介護認定者等の増加が分かるかと思えます。下の方にございますが、障害者手帳の保持者ともそれと同じような割合で増えてきてございます。

9ページにございますが保育所でございます。平成10年と比べまして定数で約64パーセントの増加を図ってきたところでございますけれども、子育てにあたる家族の方がほとんど共働きになっていくことが地域におけるミスマッチ等の課題がありまして、64パーセント増にもかかわらず待機者がまだ出ているという状況でございます。児童館、乳幼児の医療費助成等、順調に増えてきているところでございます。

10ページをご覧ください。審議会等への女性委員登用率その他がございまして、町内会加入率につきましてはこの10年で若干減ってきておりますが、政令指定都市の中で比べると非常に高い水準にございます。ライフラインの整備また高規格救急車を始めとする防災関係の施設整備を進めてきたところでございます。市民部会に関係することといたしましては、以上のような数値をお示ししまして簡単な振り返りをしているところでございます。

資料1をご覧ください。また、併せまして資料をA3で折り込みをいたしました、基本構想・基本計画の全体構造もございますので、こちらも併せてお開きいただければと思います。

資料1では、「総論」の部分と第2章の「重点的な取り組み」の「1 視点」、「2 重点政策」、「3 経営方針」を掲げているところでございます。総論部分の計画期間、人口指標等につきましては前回の部会でご説明したとおりでございます。変更しているところはございません。お開きいただきまして2ページでございます。基本的認識でございます。この10年間は人口・環境・経済・財政等の制約がいっそう高まると想定されますので、その中で市民の豊かな暮らしや都市の魅力を高めるために努めていかなければならないと考えてございます。本計画期間を「成熟社会における変革の期間」と位置づけまして、基本構想の推進、未来への希望をつなぐさまざまな取組を進める必要があ

ると思っています。これを踏まえまして、四つの重点政策と、厳しい時代ではございますので市役所の運営を含めまして、都市経営面を重視する必要があると考え、都市経営面で四つの経営方針を重点に取り上げたところでございます。このもとで市役所の全分野、施策分野を分野別計画として体系づけているところでございます。また、区別計画につきまして各区主体となりまして、区の関係者団体のご意見を伺いながら区別計画を策定しているところでございます。

「第2章 重点的な取り組み」でございます。「1 視点」につきましては前回提示したものと大幅に変わっているところはございません。

5 ページ、「2 重点政策」でございます。重点政策として四つの政策分野を掲げてございます。一番「ひと・まちが輝く『ミュージアム都市』づくり」でございます。市民の暮らしが量的な拡大から質的な向上へ方向が変化している中、自ら成長させる「学び」を重視する市民の方が増えているかと思えます。都市にとって多様な学びの提供ということで、市民生活の質の向上ですとか、都市の魅力創出といったことができると考えておりまして、これからの都市にとって極めて重要なテーマになるものと考えてございます。また、このような形で都市の魅力を再認識することが市民の都市への誇りということにつながるものと考えてございます。仙台は400年以上の歴史と伝統、学都としての蓄積がございますことから、こういった「学び」といったことで、一つのテーマにしていくということがまちづくりに有効ではないかと考えて、ミュージアム都市構想というものを進めてまいりたいと考えているものでございます。ミュージアム都市を本市の新たな都市ブランドに高め、磨き上げていければと思っているものでございます。取組の内容につきまして「多様な学びの素材の創出」でございます。市内のさまざまな場所、歴史的資産、公共施設だけではなく、路地裏ですとか里山、田園などにさまざまな学びの資産があると思っていますので、これらを再発見する、また、それを磨き上げてつなぐことによりまして、にございます市民センター等を拠点において、それらをつなぐ動きまたそのような学びを実践する皆さんをコミュニティとしてつないでいく役割を果たしていくことが大事ではないかと思っています。このような活動をする市民ボランティア、地域団体、NPOなどのネットワークをすすめてまいりたいと考えてございます。そのために市民センター等の生涯学習施設が重要な役割を果たすと考えており、公共的な施設だけではなく民間ミュージアム、画廊などとの連携を図りながら、まちなかの小さなスポットにもさまざまな魅力があることを発見していきたいと考えているものでございます。学芸員等の能力も活用しながら、このような市民の学びに対してさまざまな支援ができればと考えておりまして、6 ページの冒頭にあります現在進めております博物館連携事業「ミュージアムアライアンス事業」を推進してまいりたいと考えております。でございますが、そのような要請の中で「知る楽しみ」をキーワードとした「学びのツーリズム」、例えば長崎さるくのような着地型の観光というようなことにつなげていければと考えておりまして、物産・食・工芸等の産業との連携ができないかと考えているところでございます。こういった活動によりまして、ミュージアム都市を仙台的都市ブランド、学都等でいろいろな都市のイメージを発信しておりますけれども、その一つとしてミュージアム都市を積極的に発信できないかと考えているとこ

ろでございます。

重点施策の二番、「少子高齢時代の支え合い社会づくり」でございます。先程データ等でお示ししましたとおり、少子高齢化が着実に進んでおります。地域で誰もが健康にいきいきと暮らしていくために、介護予防ですとか障害者の方の地域生活の支援、市民の健康づくり、防災防犯活動といった地域全体で地域住民を支え合う仕組みが大事になってくるものと考えてございます。このため、「高齢時代の健康な暮らしづくり」、介護予防ですとか介護基盤の整備、障害者の地域生活を支える基盤整備、土台となる市民の健康増進、こういったものに努めていくことが重要かと考えております。またに掲げました、仙台の未来を担う子供たちを安心して生み育てられる子育て環境を整備する「子育て応援社会づくり」をもう一つの方向として掲げたいと考えてございます。子供の健全育成、未就学児の保育環境の整備、仕事と子育ての両立支援、こういったことを進めてまいりたいと考えてございます。

三番目、「持続可能な都市づくり～魅力的で暮らしやすい都市のデザイン～」でございます。都市空間をどのように形成していくかということでございまして、杜の都の良好な自然環境と都市機能の調和、低炭素というこれからの環境要請にこたえるエネルギー効率の高い集約型の都市構造に移行していくことが重要かと考えてございます。8ページをご覧ください。土地利用といたしまして、「自然環境保全ゾーン」、「集落・里山・田園ゾーン」、「市街地ゾーン」という形で切り分けまして、それぞれの機能に応じた自然環境の保全、生活環境の向上、都市機能の増進といったことに努めてまいりたいと考えてございます。9ページにもございます都心地区は東北、仙台の顔でございまして交流の拠点でございます。商業機能、国際交流機能等、さまざまな都市機能を高度化していく必要があると考えてございます。中心商店街の魅力の向上といったことも大事なテーマととらえてございます。拠点といたしまして都心との機能分担ということで、泉中央及び長町地区に「広域拠点」、仙台港周辺に「国際経済流通拠点」、青葉山周辺に「学術文化交流拠点」を配置しまして、都市の持続的な発展を支えてまいりたいと考えてございます。また、期間内に開通いたします地下鉄東西線、南北線が十文字の都市軸を形成してまいりますので、これらの駅周辺を中心といたしまして土地の高度利用、都市機能の集積を図ってまいりたいと考えてございます。10ページをご覧ください。前回の部会でお示した図と基本的な構造は同じでございしますが、「JRでありますとか道路網といったところをはっきりと書き込みまして、機能の分担を分かりやすくしたつもりでございます。10ページの「都市交通の方針」でございます。これからの高齢化社会を考えたときに高齢者、障害者の方も使いやすい公共交通を中心とした交通体系というものが重要かと思っております。環境負荷の低減という意味でも、そういったことを重視して取り組んでまいりたいと考えてございます。鉄道を基軸とした公共交通網の再編、都心交通環境の改善、地域での生活交通の確保、また、東北全体を見まして広域交通ネットワークの整備が進んでおりますので、こういったものを活用していくことが重要だと思っております。また、道路ネットワークについて優先順位を明確にしながら計画的に整備を進める必要があると思っております。

12ページでございます。「(4)成熟社会に都市が輝く賑わい・活力づくり」でござ

います。高齢社会・人口減少、経済の低成長など時代は不透明感を増しておりますけれども、その中にあって市民の暮らしをしっかりと支える地域経済の活性化、雇用の確保、交流人口の拡大などが非常に重要になってまいります。そのため、仙台らしさ東北らしさをもう一度見つめ直して、これを生かした取組を進める必要があると思っております。でございますが、本市産業の中核をなし、経済を支える中小企業、中心商店街等の活力の向上が重要だと思っております。これによりまして多様な地域雇用の機会の創出に努めてまいりたいと考えているものでございます。でございますが、新たな成長産業の創成を支援してまいりたいと考えてございます。創造的人材の獲得でありますとか、クリエイティブ産業が仙台の中で起きてきておりますので、これらの振興につきまして支援するとともに、印刷業・デザイン業・コンテンツ産業などさまざまな分野と連携を図りながら、地域産業の高付加価値化などに努めたいと考えてございます。また、次世代の成長産業として期待されております健康福祉産業等、また、東北の強みであります農業を生かした農商工連携、農業の六次産業化などにも力を入れていく必要があるものと考えております。その中で商都仙台でございますので、商店街の賑わいを維持していくことが重要だと思っております。でございますが、交流人口の拡大、定住人口の方で人口減少が始まるというような推計もございますので、このような中にありまして、交流人口を拡大していくことが非常に重要だと思っております。国内外に対するプロモーション、先程申し上げましたミュージアム都市としてのシティセールス等さまざまな取組を進める必要があると思っております。観光誘致にあたりましては、一仙台ではなく、東北各地を連携いたしまして東北の魅力を売り込み、仙台の交流人口を増やすという視点が大事だと思っております。イ)にございます「都市型産業の誘致・育成」でございます。北部工業団地ということで大規模製造業の立地がありますがけれども、都市内には大規模工場用地がございませんので、仙台にふさわしい都市型の産業の誘致・育成、研究開発型産業等の誘致を進めてまいりたいと考えてございます。大学や各種研究機関と連携することで仙台の独自性を打ち出していければと思っているものでございます。

15ページからは経営方針でございますので、こちらにつきましては前回の部会でご説明しましたところが多いようですが、「きめ細かな地域政策の推進」ということで、区役所を始めとしまして各地域のさまざまな多様化してまいります地域課題に細やかに対応できるような体制、市民主体の地域づくりができるような連携、基盤整備等を進めていく必要があると思っております。区役所や市民センターと一体化しながら、これらの取組がスムーズにできるように、さまざまな取組を進めたいと思っております。

(2)は基本構想でも重点としてあげております、「未来を創る市民力の育成と新しい市民協働」でございます。地域政策とも重なりますけれども、市民皆さんお一人お一人と、地域社会、仙台の未来のあり方について検討し、共に進んでいくことが必要だと考えてございます。16ページでございますが、市民力、仙台はもともと各種市民力の取組がさまざまある地域でございますけれども、その市民力を伸ばし次代の市民力を育てていく、子供たちを始め若い世代が日常的に市民力に触れながら次の市民力が育っていく、そういった循環づくりが大事だと思っております。また、 のところにございま

す市政への市民参画をより一層進めたいと思っております。そのためには市民の皆さんに対しまして、十分な情報提供をすること、透明化を進めることが重要だと思っております。政策形成過程などで広範な市民意見を募集するような仕組みづくりについて検討してまいりたいと考えてございます。でございますが、町内会を始めとする各種の地域団体などこれまでも地域の課題解決等でさまざまな役割を果たしていただいているところでございます。このような団体、NPO、企業などと交流・連携をしながらきめ細やかな地域政策を進めるためにネットワークを強化してまいりたいと考えてございます。市民主体の新たな公共を広げるという でございます。新たな公共ということで、これまで行政が担っていた分野につきましても、さまざまな団体・企業などが参入を強めております。このような市民力によりまして、公共の分野を担っていただくことにより、より柔軟で質の高いサービスの提供ができないかと考えてございます。各主体の知恵やノウハウを生かし、これらの連携を強めながら市民サービス向上の取組に向けて取り組んでまいりたいと考えてございます。

三番目、「公共施設の経営改革」でございます。本市が有する公共施設、高度成長期でございますとか、政令市移行時、いろいろ各区に整備しました施設も、もう20年30年経過いたしまして、維持・更新の期間になってございます。財政状況が厳しさを増す中で市民への安全・安心ということで、市民サービスという点から考えましても、これらの計画的な維持方針または地域ニーズに応じた転用、そういったことが重要になってくるかと思っております。そういったものを中長期的な視点に基づきまして総合的にマネジメントする必要があると考えてございます。 の案にございますように、地域ごとの公共施設の老朽化等の状況を把握しながら用途変更を決めまして、さまざまな利活用方法について検討する必要があると思っております。18ページでございます。市民・企業との連携・協働による施設の整備、運営等でございますが、これらの施設の運営にもさまざまな市民力が入ってきておりますので、こういった市民力と連携しながらこういった取組を進めてまいりたいと考えてございます。

最後が、地方分権の推進と広域連携に向けまして、仙台市がこの役割を果たしていくこと、市役所が効率的な行財政運営と絶え間ない自己改革に努めることが重要だと思っております。以上重点でございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

それでは最初に10年余りの振り返りの説明がありましたけども、この点について、何か確認をしておきたいことがあれば是非。まずは確認していただきたいところに限って、何かありましたらご発言いただきたいと思います。

どうぞ。

佐竹久美子委員

10ページの町内会加入率の件ですが、この10年でだいぶ減ったという理由というのか。



小松洋吉部会長  
要因ですか。

佐竹久美子委員  
はい。

山内企画調整局長

私の経験上としまして、昨年区役所におりましたが、その中で町内会から聞いた話としましては、やはり高層住宅、マンションでの加入率が低くなって、そこで困っているという話はだいぶ聞いております。そういったことから、そういうマンション世帯に対する加入率を高めるために、今年度からいろいろと市民と一緒に取り組んでいきたいと考えております。でもこの傾きからするとだいぶ下がったように見えますけれども、90.4%が88.4%という感じですので。

小松洋吉部会長

よろしゅうございますか。

ほかに何かご確認しておきたい点ございますか。

それではまた後ですね。関連しますので、ひとまず参考資料3の確認は終えて次に進ませていただきたいと思います。

次が基本計画の総論とその重点的な取組としてのその視点、重点政策、経営方針についてのご説明であったと思います。すなわち資料1ですね。これについて意見交換をさせていただきたいと思います。それぞれの立場からどうぞご自由にご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。

樋口委員どうぞ。

樋口稔夫委員

二、三点あるんですが、一つは、ページで言いますと13ページのウ)です。ここで「商都・仙台の新たな賑わいの創造」というところで、JR、高速バス、地下鉄東西線だけを限定して、「等」と書いてはいるのですが、実際は南北線の方が相当輸送量も多いし、需要も多いわけです。そこをもう少し、特に北の方は都市圏としてだいぶ伸びておりますので、そちらを意識した表現と一緒にしていた方がよろしいかなと思います。それで地下鉄東西線という名前を入れるよりは、地下鉄などとした方が両方含んでいるということになると思いますけど。

後もう一つですね、19ページになりますかね、職員の方々の市民活動への参加。これ、ちょっとパンチが余り効いていない感じがするんです。我々としては、よく聞くのは市の職員は地域に帰って、余り地区活動に専念していないとか、積極的にしないという方も結構多いということです。これは行政自らが率先してというような感じの、強いパンチを入れていかないと、職員という立場と、まあ市民と同じなんですけど、市民の立場になって率先してやっていくと。そういうことを何か表現の上できちんといれた方

が、今までよりもう少し市民から理解が得やすいといいますか、仙台市が進める、市民と行政が一緒になっているという感じが強く出ると思うんです。そこをもう少し表現を何か入れた方が意識改革という、市民以上に本気になってやるという感じで言ってもらえると、市民力の中でもすごく光るのかなと思います。そういう事を何か入れてもらったらよろしいかなと思います。

小松洋吉部会長

よろしゅうございますか。南北線の件と職員の市民活動の件でございます。

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ、それぞれの立場から。

大村虔一委員

よろしいですか。

大きいところだけ一つ申し上げますと、振り返りのところもそうなんですけれども、要するに人口の指標が変わったということがいろんなことを変えているというふうには読めるんですが。前回の都市づくりのいろいろな文言がどうだったのかっていう話と、同時に合わせて、要するにこういう社会情勢になってきていて、そして非常に変革をしないと、なかなか国のいろんなところがもたないという状況の中で、仙台市はどう変わっていかうとするのかという話なんだろうと思うんです。そうするとその何と言うか、今までやってきた方向と変革しなければいけない視点というのはどの辺にあるのかっていうのをもう少し書いてくれると、後から出てくるいろんな施策や何かが見えやすくなるような気がするんですけど。いろんな、例えば都市計画の図を見ていても、成熟社会の適応のための変革点っていうのがどうやって見るのかっていう、まあ前の絵と少し変わってはいるんですけど、まだちょっと見えないのではないかと。もう少しやっぱり本当にどうなのかっていうのを考えていく必要があるんじゃないかという気がします。ちょっと漠然としていてごめんなさい。

小松洋吉部会長

その点は状況課題のところで結構触れられているような気はいたしますけれども、そのとこの結びつきみたいなことを先生はおっしゃったのかなというふうに思いましたですけれども。

何か事務局の方で付け加えたり、コメントすることがあれば。

梅内総合計画課長

私どもとしても、今、部会長からお話がありましたように、状況等のところでいろいろな個別の事象については記載しているところなんですけれども、こういう方向に行くというのをどのように表しているのかというところで、今回重点的な取組に対し都市経営方針の重視というのを出したつもりではあるんですが、なお表現について考えていきたいところがございます。なかなかすぐに中間案でということは難しいかと思いますが、

最終的にどこまでできるかということは考えたいと思っております。

小松洋吉部会長

成熟社会における変革の期間というのは、私読んでいてまあすっきりとくるんですけども、大変上手に表現されたと感想としては思いましたですけども。それをどう変わって、これが以降どうなるのかということのつながりのことを言っているんだろうと思います。ご検討いただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

どうぞ、阿部先生。

阿部一彦委員

6ページの「(2) 少子高齢時代の支え合い社会づくり」で、7行目ノーマライゼーションの理念に基づくというのはとても大事なことですけれども、今社会福祉領域ではノーマライゼーションというのは、言ってみれば排除しない社会づくりということですけども、もっと積極的な意味でソーシャルインクルージョンという、一人一人の役割をその社会の中で生み出して支援するということもありますので、ノーマライゼーションの理念に加えて何かまたはソーシャルインクルージョンというのも、障害者保健福祉計画はまだ施策推進協議会を始めたばかりですけども、やがてそういうことも検討もしていかなければいけないのかなと思っているところですけども、一人一人を包み込む、まさにこれ格差社会E Uの理念でもありますけれども、そのようなこともご検討いただければと思いました。ノーマライゼーションは排除しない社会ということですけども、積極的に一人一人の役割というようなところからソーシャルインクルージョンという考え方もご検討いただければと思ったところでした。

小松洋吉部会長

どこまで突っ込むかなんでしょうけれども、そうするとエンパワーメントも私は福祉の理念の中では、これからもっと大事だと思うんですけども、これは全体の計画ですので、中にはそういうことも含んでいるんだろうと思います。

ありがとうございました。

ほかにいかがでございますか。

それではまた関連するところが出てくるとしますので、振り返りと資料1についてはこれくらいにさせていただきます。また後ほどご意見をうかがいたいと思います。

それでは、続いて資料2になります。これは分野別計画でございます。私どもは市民の暮らし部会でありまして、それが1ページから11ページ、17ページ以降が都市の魅力部会の方ですが。この1ページから16ページを二つに区切って協議をお願いしたいと思います。最初に(1)から(3)までをお願いしたいと思います。それでは事務局の方よろしく願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは資料2につきましてご説明させていただきます。2ページ、3ページをご覧ください。市民の暮らし分野は2ページにございますとおり、五つの分野体系から構成されております。「健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」「人が支え合う共生社会づくり」「子どもたちが健やかに育つまちづくり」「協働による地域づくり」「市民力を生かし育む学びの都づくり」でございます。部会長の方からご説明がありましたように、では最初にこの3番目までについてご説明させていただきます。

3ページでございます。「(1)健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」でございます。健康づくり、自殺、ひきこもり等への対応、救急医療、食の安全、さまざまな危機管理、宮城県沖地震をはじめとする災害への対策、自助・共助、防災・減災といった課題に取り組むものでございます。

4ページから基本的施策でございます。「市民の健康づくりの推進」ということで五つ取組を掲げてございます。先程の指標にも掲げました、基礎検診等、予防ということが大事でございますので、ライフステージに応じた健康診断体制、また市民の健康を形づくる食育の推進、さまざまなひきこもり支援ですとか、自殺予防といった相談支援体制の強化に努めてまいりたいと考えてございます。

「医療・救急体制の充実」でございます。二次救急を受け入れる仙台のような都市が、二次救急、三次救急といった高度な医療の担い手になってございますので、二次救急患者を受け入れる救急医療体制を充実してまいりたいと考えてございます。救急救命士の養成ですとか、さまざまな救急ニーズに合わせた対応を図る必要があると思っております。また、現在、あすと長町地区に市立病院の移転を進める計画を動かしてございますが、救急救命医療ですとか、小児救急医療、災害時医療等、政策的医療を実施する拠点として強化してまいりたいと考えてございます。また、精神科救急医療体制の整備を合わせて進めたいと考えてございます。

「暮らしの安全の確保」でございます。さまざまな危機管理、パンデミック感染症等への対応、食中毒等への対応、消費者教育・啓発の推進等、市民の安全、暮らしの安全を確保してまいりたいと考えてございます。

「安全・安心な地域づくり」でございます。防犯等、交通安全等、地域ぐるみでの対応が重要になってまいりますので、こういった取組を強めてまいりたいと考えてございます。

5ページ、「基礎的な生活基盤の維持管理」でございます。公共施設につきまして、先程重点でも申し上げました維持管理等が課題になってございますので、総合的なマネジメントを実施して安全・安心の確保に努めたいと考えてございます。老朽化が進んでいる施設への対応、また、施設の長寿命化などが重要だと考えてございます。

「災害に強い都市構造の形成」でございます。地震等最近ゲリラ豪雨というようなことも報道でございますけれども、こういったものに対応する上下水道、橋りょう、雨水ポンプ場等の整備を進めてまいりたいと考えてございます。

「災害への対応力の強化」でございます。消防車両をはじめとしまして、宮城県沖地震等大規模災害に的確に対応できるような消防体制、救急体制を進めてまいりたいと考えております。また、地震だけではなく、津波、土砂災害、防火、防災等にも同様に

努めてまいりたいと考えております。

、これらの取組にあたりまして、特に重要になります、「地域の連携による防災力の向上」が必要になると思っております。女性や若者、高齢者等、対象者ごとにさまざまな防災の取組への工夫が必要と思っておりますので、普及啓発ですとか、日ごろの地域連携の強化に努めてまいりたいと考えております。

6 ページでございます。二番目の柱、「人が支え合う共生社会づくり」でございます。価値観やライフスタイルの変化に伴いまして、また高齢化の進展に伴いまして、特に高齢者の一人暮らしですとか高齢者のご夫妻のみで構成される世帯等が増加してございます。このような中で高齢になっても、住み慣れた地域で安心して生活していくことができる環境づくりが重要だと考えております。また障害者も、先程21プランの振り返りのデータでございましたけれども、増加する傾向にございまして、こういった皆さんにつきましても地域で支え合いながら、いきいきと暮らせるように地域をつくっていく、地域と共にこれらの方々を支えていくことが大事だと思っております。外国人留学生の増加傾向等もございまして、こういったものへの対応、男女共同参画の推進、女性に対する暴力の根絶等にも努めてまいりたいと考えてございます。

7 ページから基本的施策でございます。「高齢者が元気で安心して暮らせるまちづくり」でございます。介護予防の普及啓発、スポーツ、文化・芸術等の多様な生きがいづくり、さまざまな交流の拡大、こういったことが重要だと考えてございます。現在見直しを進めております敬老乗車証等のような制度につきましても、適切な制度を構築しながら確かな高齢者の外出活動の支援が重要と考えてございます。地域包括支援センター等の地域での重点となります、市民サービスの拠点機能を充実させてまいりたいと考えてございます。また特別養護老人ホーム等、多様な介護サービス基盤の整備が必要だと考えてございます。

「障害者が自立した生活を送ることができるまちづくり」でございます。ホームヘルプサービス等さまざまな福祉サービスの充実、医療ケアへの対応、障害児通園施設の整備、児童デイサービスや障害児タイムケア等の放課後ケア、さまざまなニーズがあるところでございます。こういったものを支えていけるような地域での福祉拠点の整備、また現在ございます発達相談支援センター等の整備・強化によりまして、さまざまな支援を展開していくことが重要だと考えているところでございます。

7 ページ一番下、「多文化共生社会の構築」でございます。外国人の方を始めとしまして、コミュニケーション支援や生活支援、言語や文化的差異の多様な価値観を認め合い、尊重し文化を受容し合う多文化共生社会の構築が重要と考えてございます。

「男女共同参画社会の構築」でございます。政策形成過程等での、女性の参画を進めるとともに、女性への暴力の根絶を図り、女性の人権が尊重される環境づくりが大事と考えてございます。男女共同参画推進センター等の拠点施設におきまして、さまざまな主体と連携しながら暮らし方、働き方、男女共同参画社会の総合的な推進が重要と考えております。

「利用しやすい施設整備の推進」でございます。さまざまな公共施設等におきまして、高齢者、障害者共に配慮したバリアフリー化が重要と考えてございます。歩道等公

共施設、都心の歩行空間の段差解消等も重要な課題と考えてございます。

「セーフティーネットの構築」でございます。相談支援体制、周知徹底といったことが重要と考えてございます。ホームレスの方の社会復帰を支援する制度を強めてまいりたいと考えております。

9ページ、「(3)子どもたちが健やかに育つまちづくり」でございます。核家族化や共働き世代の増加、地域でのつながりの希薄化といった状況がみられますので、子育て家庭が孤立化する恐れが強まっているものと認識してございます。こういったことに十分対応しながら地域社会とのつながりによりまして、子育て、子供の健全な育成を支援していくことが重要だと考えてございます。

10ページ、基本的施策でございます。「子どもと子育て家庭を応援する地域づくり」。支援の拠点となりますのびすく、子育てふれあいプラザを中心とした、各種のネットワークの構築・活性化を図ってまいりたいと考えております。子育てサークルの支援等によりまして、子育て家庭の育児不安の軽減と孤立化の防止が大事と考えております。各種講座、教育相談、そういった支援体制が重要と考えております。地域、学校、家庭、PTA等が一体となりまして、学校ボランティア防犯ですとか、児童生徒の安全の確保など、子育てを安心して進められる環境づくりに努めてまいりたいと考えてございます。

「生きる力を育む教育の充実」でございます。児童生徒の学力の向上、確かな学力の向上等に努めることが重要と考えております。少人数学習の推進等、確かな学力の育成に取り組んでまいりたいと考えております。また児童生徒の職場見学、職場体験等、自分づくり教育を推進することも重要と考えております。また健やかな体の育成に向けて、食育、運動習慣、生活習慣の確立が重要と考えております。その前提となります給食センター等の各種の対応、スクールカウンセラー等の相談員の配置、学校の過大規模校と老朽校舎との対応、そういったものを進めてまいりたいと考えております。

また、「明るく元気に育つ環境づくり」ということで、地域における大人との交流、子供たちの読書活動の拠点の整備、家庭との地域における活動拠点となる児童館の整備等、子供たちが元気に育つような環境づくりを進めてまいりたいと思います。

最後に、「安心して子育てができる環境づくり」でございます。公的保育サービスの拡充とともに、保育を希望する人のニーズにかなえられるように、保育所の待機児童の早期解消に努めてまいりたいと考えてございます。公立保育所の民営化等の課題がございすけれども、その意向に応じて三歳未満児保育の担い手を支援する等、さまざまな支援を生かした保育サービスの充実が重要と考えております。企業に対する育児支援制度の普及・啓発等によりまして、男性の育児参加の促進や子育てと就労の両立支援を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

ただ今のご説明は、市民の暮らしの三つ、健康と支え合いとそれから子供についての

ご説明でありました。

皆さんからご質問、ご意見をいただきたいと思います。

樋口委員どうぞ。

樋口稔夫委員

7 ページなんですけど、「高齢者が元気で安心して暮らせるまちづくり」ですね。最近、独居老人が相当増加しておりまして、独居老人、健康な人であればそのまま、次の日になったら死んでいたとかいろいろあるわけですが、後、行方不明になったとか最近割といわれていますが、安否確認とか普段の生活支援ですか、一人でいろいろやっているわけですから、そういったものに対しての何か基本的な施策がここに何もなさそうな感じなんです。これは今後だいが増えてきますので、やっぱり行政としてもそうですし、いろんな立場から支援していくシステムづくりが必要かなとこういう感じがしますが、入っていないというのが何か最近の流れにちょっと乗っていないかなという感じがしたんですけれども。

小松洋吉部会長

なるほど、全体の計画ですので、地域包括支援センターの機能充実というところにも読み取れなくもないのですが、全く問題意識がないということではないだろうと思います。

何かコメントすることありましたら。

梅内総合計画課長

確かに最近ニュース等でこういったことが大きな問題となっております。当然今の部会長の方からご指摘ありましたように、いろんなところでそういったものに努めてまいりたいということで入れてございますけれども、特記するかどうかということについては関係部署とも相談しながら検討してまいりたいと思っております。

樋口稔夫委員

最近民生委員で対応していくというのが、すごく困難になってきているんです。民生委員以外の人だと、町内会とかそういうレベルでやるしかないんですけれども、そういうものをきちんとやっていくという体制づくりを求めていかないと、あんまり気にしない町内会もありますので、この辺はきちっとやっていく必要があるのかなという感じがですね。

小松洋吉部会長

市民力を前面に出していますから、大変大事なところだと思います。

なお、工夫というか、ご検討いただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

どうぞ、大村先生。

#### 大村虔一委員

大きな話ですけども、一番目の「健康で安全な安心して暮らせるまちづくり」というのが気に掛かっておりまして、これは例えば、健康というところにだけスポットが当たっているんだよとか、その次は共生というところだよとか、その次は子供だよというふうに分けるとそれはそれでいいような気がするんですけども、この言葉でこう書いてあります「人が支え合う共生社会づくり」というような言い方をすると、例えば、子供の施策の中に、「子供と子育て家庭を応援する地域づくり」というのは、「人が支え合う共生社会づくり」という中に入ってもおかしくないし、「健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」と言ってもおかしくないというか、ここで言っている言葉はかなりお互いに重複していると、それをどういうふうに切り分けているのかというのが、もう少し見えやすくした方がいいんじゃないかと思います。

特にこの共生というところでいうと、普通は老若男女から、障害がある方とか、国籍、宗教、民族なんていうものがみんな一つになってというものの考え方でありましょうから、そうするとこの中に子供も本当はいて、子供が社会の一員として何かしらの役割を果たすことによって、将来の自分の文化とかその生き様だとか何かを学んでいくというようなことをしっかり位置づけるなんていうのは、大切かもしれないんだけど、多分違った目で子供は教育とかほかの目でこうみてしまうので、なかなかこう難しい。高齢者、子供とかいうのだけでみないで、ここの中では共生社会の中で高齢者が取り上げられてきているとすれば、そうしたものの見方の再整備がいるから、これは今まで担当している部局との関係が強くあるということがあって、意識して意地悪を言っておりますが、新しい組み換えというか何かすることによって、例えばある方向を区なら区に任せるといような施策になっていった場合には、かなり区は総合的に事を扱ってしまうことになっていくだろうと思いますし、そういうことを意識して何か枠組みをつくっていただくといいかなというようにちょっと読んで感じました。

#### 小松洋吉部会長

何か関連すること、皆さんからいかがですか。

どうぞ、針生委員。

#### 針生英一委員

今のことに関連するようなシナリオところとかあるんですけども、9ページ、10ページ、11ページの辺りなんですけれども、例えば9ページですね、丸の二つ目に「家庭、地域から学校の連携による家庭と地域社会の教育力の向上」というのが書いてありますけれども、その中にやっぱり企業も入れるべきだと思っております、これは例えばその次のページの職場見学や職場体験というところで企業の協力がどうしても必要になってくるということと、後もう一步進んでいくと、例えば11ページの「企業に対する育児支援制度の普及・啓発」だとかあるんですけども、ここは育児だけではなくてやっぱりその健全な家庭づくりというふうに向かって、その中で子供たちがどう育っていく



のか、それを支えるために企業がやっぱりバックアップをしていかないといけない。企業が変わらずにぎりぎり働かせるという環境の中では、なかなか個人がやりたくてもできないというのがありますので、そういった部分を社会として、やはりそういった形にもっていくべきだと思います。本編の方ではワークライフバランスとかが入っていましたけれども、こういった部分でやはり切り分けていく必要があるのかなとちょっと思いました。

それから後もう一点、市民教育という部分をもうちょっとこうきちんと位置づけた方がいいのではないか。行動する市民力というキーワードもありますけれども、教育の中で国の方でもシティズンシップ教育というのを徐々にその方針の中に入れ始めておりますので、市民協働だとか社会形成、社会参加に関する教育というのは、その部分をきちんと位置づけていかないとその次の世代が育っていかないと感じますので、そういった部分は方向性としては入れた方がいいのかなと思います。

小松洋吉部会長

企業を入れるということについてはいかがですか。僕はなんかとってもいいことではないかと思うんですが、ひとつ検討をしていただくというのと、それから市民教育のところでは、針生委員、これは社会貢献意識の醸成と似てはいませんか。これに関しては、よく社会貢献という。

針生英一委員

社会貢献というか、やはり新しい公共を担う意識を育てていくというか、自分も市民の一員として市民協働を支えていくという意識をする。

小松洋吉部会長

なるほど、二点に関して。

梅内総合計画課長

その企業との連携ですとか、市民教育等については非常に重要ということでご指摘のとおりと思ってございます。一つには、後ほど参考資料でお示しします起草委員会の方でコメントいただきました基本構想の中でも、企業、市民力という形で、企業との連携の重要性ですとか子供に対する市民力の教育の重要性ということをやっておりますので、そういったことについても、全体として力を入れていきたいと思っております。

先程資料1でご説明しました重点の中で、経営方針の二番目の項目で市民力の育成と新しい市民協働という欄がございましたけれども、資料1の16ページの「市民力を伸ばし、次の時代の市民力を育てていく」といった循環をつくるためには、子どもたちをはじめ」というところで、この辺が市民教育とおっしゃった針生委員のところと重なるのではないかと考えているところでございます。この辺の記述につきましても、重点と分野別計画と書き分けとの課題であり、昨日の部会でも指摘のあったところでありまして、市民の皆さんからすると大量のものになってしまいますので、分野別計画を見ても

そういう要素が長く入っているかはおいておきまして、ちりばめることも大事じゃないかというご指摘が昨日部会の方でもございましたので、今のようなご意見も踏まえまして、中間案というところではちりばめるということがなかなか難しいかと思うんですが、方向性がある程度固まった段階で書き分けとかちりばめ方についても考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございます。

水野先生どうぞ。

水野紀子部会長代行

よろしいですか。ちりばめるということでしたらということなんです、子供たちの問題につきまして、健康な家庭のサポートというのは随分書いてあるのですが、問題なのは、病理を抱えている家庭をサポートで、具体的には児童虐待の問題を考えているんですが、それは資料1の方には7ページのところに、「児童虐待の早期発見・防止に努め」という一言が書いてあるんですけども、資料2にはどうも書いてないようなんですけれども、これ非常に深刻な問題でして世代間の連鎖もおこりますし、子供たちを早急に救出しないと、何ていうんでしょう、反社会的人格障害者になって市にとってもコストも高くつきますので、是非それを少し入れていただければと思っております。

それからもう一点ですが、これは最初の資料1のところで申し上げるべきことであつたのかもしれないんですけども、よろしいでしょうか。児童虐待というものもこの10年間で随分変わってきたことだと思うんですが、この10年間で前回と大きく変わってきたのは、少子高齢化が進んでしまったことのほかに、我々社会は情報化していった要するにネットワークコンピュータで非常に社会のあり方が変わってきてしまったということがあると思います。それをどのように今回の計画の中に書き込んでいくのかというのは、私はただ思っただけでイメージがあるわけではないんですけども、でもこれ程ものすごく影響があって、つまり、商工会みたいなものが、ネットでぽんと一発で一番安いところが見つかってしまう、そこから物流で送ってもらうという購買がずっと進んでいったということもあるでしょうし、それから何しろ市の側でもネットで発信もしやすくなりますし、市民の側でもネットで発信しやすくなる、相互に発信受信が非常にしやすくなるということが、これからどのように我々の市民の生活に影響していくのか、先程の独居老人の把握にもそれこそ、バイタル、一人暮らしの生存反応のみたいなものをコンピュータで検知ということも可能になりますし、子供でも何かGPSを付けてどこにいるのか全部分かるというようなことも分かるようになって、そういうネットワーク社会化になったということについて、今度の計画がどのようなイメージをもって、どのようにそれを取り入れていくのかという視点が、ちょっと抜けているかなという気がいたしました。

小松洋吉部会長

一つは、子供の虐待のところは大変重要なことだろうと思います。どこら辺で恐らくこの中には盛り込む、表現はないかもしれませんが、そういう視点では考えているんだろうと思います。

それから、C P化というか情報社会の市民と市民社会、市民生活の影響というのも、これも何か避けて通れない課題だろうと思うんです。ここら辺もどう表現するかは考えていかなければいけないと思うんです。状況・課題の辺りにも入れるべきなのか、あるいは具体の施策体系の中に入れるべきなのかも含めて、これはご検討いただければいいのではないかと思います。大変重要な視点ではないかと思いますので。

どうぞ。

梅内総合計画課長

二番目の点については確かに、ネット全体とかそういうことについては視点というのを示していないので、これから検討してまいる必要があるところとさせていただきます。

児童虐待につきましては、一応分野別計画の中でも、10ページの一番下のところから11ページの冒頭にかけてのところで、子供への支援策の推進ということで入れておりますけれども、こういうことについても強化していく必要というのは、私の方でも感じているところでございます。

小松洋吉部会長

10ページから11ページにそういう文言は確かにありますね。

水野紀子部会長代行

ありました、ありましたすみません。見落としておりました。

梅内総合計画課長

ちょっと見づらいです、ページが分かれておりますので。

水野紀子部会長代行

すみません。ただ、もう少し具体的に、例えば病院で発見したときにどのように連携するかとか、あるいは小学校の先生、保育園の先生、保母さんが見つけるということもあるんですけれども、そういう場合のその連携のシステムとか、何かもうちょっと言葉を出していただければと思います。

小松洋吉部会長

対応するなどのところをもう少し突っ込んでということなんだろうと思います。考えていただきたいと思います。

大村虔一委員

同じような話になっちゃうんですけども、どこにものを入れていくかという話にさっきから見ているんですけども、大体市民の暮らし部会はソフトの話が中心になっているんですけども、しかし、健康の部分でいえば災害に強い都市構造の形成という話、それからもう一つは8ページに「利用しやすい施設整備の推進」という、これ当然ハードが絡まないとなかなかうまくいかないのが当然なんでありましてけれども。都市づくり側からいっても災害に安全であるとか、あるいは19世紀辺りの都市づくりの中では環境衛生というか衛生問題を都市がどう扱うかというところに腐心している、大きな都市づくりのテーマなわけですね。それをどこで扱うかという、扱う方が分かりやすくなるかというのが課題なのかなと思います。中に書かれていることについては、余り不足は感じませんので。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。そうですね。

ほかにいかがですか。

どうぞ、柳生委員。

柳生聡子委員

今の「(3)子どもたちが健やかに育つまちづくり」の中のと、先程の資料1の重点政策の中の「『ミュージアム都市』づくり」とその二つに関連した話になってしまうんですけども、子供にとっての学びというものを考えたときに、ミュージアムに学べるって多いのですが、やっぱり小学生とかそれ以下の小さい子供ですと、ミュージアムに行っても学べることもあるけど、元気に体を動かしてお外で遊びたいという方もすごく多いかと思うので、もっと身近なところで学びや遊びが提供できる環境を充実させていくという視点もあったらいいんじゃないかなと思いました。どこかに行って博物館ですとか、美術館ですとか、画廊ですとかに行くというのもいいんですが、一番の地域の拠点というかミュージアムというものが、子供もお年寄りも集まる公園じゃないかなと思いました。施設が老朽化していたりすごく差があると思うんです。とても良い公園がある地域もあれば、ほとんどないに等しいような地域もあると思いますので、学び、遊びを提供する場所という意味で公園というのを一つ、私はとても大事に考えております。

子育ての点から考えますと、すごくここ10年程で仙台市の児童館はとてもよくなったと思うんです。子供を連れて多くのお母さんたちがきて、いろんな交流の場になって親もそこで学べるんです。社会勉強だったりあるいは地域の中で子育てのネットワークができて、一時預かり等公的な施設を利用しなくてもその知り合った仲間同士が預け合ったりということもできておりますので、そういった部分、身近な公園や児童館やそういったものの充実というのも、ミュージアム都市構想あるいは明るく元気に子どもが育つ環境づくりの中に盛り込んでいければと思いました。

小松洋吉部会長

都市づくりとも関連するところですので、何か表現をうまくですね。

梅内総合計画課長

ご指摘の点を踏まえてまいりたいと思います。重点政策の（１）のミュージアム都市構想につきましては、５ページの のところにお示ししましたとおり、いわゆるミュージアム、社会教育施設だけではなくて、地域にある路地裏や里山、田園等というふうに書いておりますけれども、さまざまな学びの場を、従来型の社会教育施設に限らないさまざまな学びの場を地域の皆さんと一緒に発見してつないでいくというようなテーマにしたいと考えてございますので、そういう意味ではご指摘のありました公園というようなところも人々が出会うという意味では、貴重な学びの場になるのではないかと考えております。

経営方針の（１）で地域政策ということを重視しておりますけれども、地域における公園の重要性というのはご指摘のとおりと考えておりまして、公園の管理等地域にお願いするほかに、例えば地域でそこで花壇等を利用してものを育てたりしながら運営していくということで、子供たちがその植物の育成状況を見たりというようなこともあると思いますので、そういった重点政策の中にあるようなポイントをつなぎながら、今のご指摘のような子供たちが学ぶ環境づくりというのを進めていければと思っているところでございます。

小松洋吉部会長

はい、ありがとうございました。

時間も限られておりましてですね、大変申しわけないのですが、一応残った二つについてご説明いただき、それからまた関連がありましたら、たくさんご意見いただきたいと思います。

それでは、残りの二つお願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは、資料２の１２ページの「（４）協働による地域づくり」でございます。先程の資料の冒頭でご覧いただきましたけれども、仙台市は他の政令都市と比較しましても町内会の加入率が高く、町内会の活動が熱心な地域でございます。こういった地域団体又はＮＰＯ等の市民団体との連携を強めまして、これから地域づくりを進めていく必要があると思っております。先程の重点に掲げましたように地域課題が多様化しておりますので、高齢者等の対応、災害への対応を始めとする各種の地域課題に、これらの団体、市民の皆様との協働による地域づくりをより進めてまいりたいと考えてございます。そのため、区役所等の組織の見直し等も進めてまいるということで重点のところでお示ししているところでございます。

１３ページ、基本的施策でございます。「市民による主体的な地域づくり」でございます。町内会を始めとしまして、地域のさまざまな団体、市民活動団体、さまざまな集い、地域づくりの理念を工夫する機会を創出してまいりたいと思います。地域の特性を

踏まえまして、多様化します課題の解決、さまざまな地域活動の担い手の育成、資源の発掘、先程ミュージアム都市構想でもありました資源の発掘・共有等を地域の皆様の主体的な活動を支援しながら進めてまいりたいと考えてございます。先程、マンション等の課題があげられましたけれども、こういったところの町内会形成の促進等、地域団体の強化といいますか、促進を進めてまいりたいと考えております。区役所、市民センターが一体となって地域の支援ができるように努めてまいりたいと考えてございます。

「世代を超えて支え合う地域づくり」でございます。少子高齢化ということでございますけれども、高齢者が高齢者を支える活動、また世代を超えた高齢者による子供の見守り等、さまざまな世代を超えて支え合うという地域づくりが重要と考えてございます。さまざまなニーズに対して地域と連携しながら支援をできるように努めてまいりたいと考えてございます。

「新たな協働によるまちづくり」でございます。先程重点の中で、市民協働、市民参画ということでご説明させていただきました内容と重なる部分がございますけれども、新しい協働で市民参画を進めていくために、さまざまな取組を進める必要があると思っております。この中で多様化・複雑化する地域課題の対応、企業による社会貢献活動等を促進してまいりたいと考えてございます。今まで実績があります各種の活動等を支援し進めるとともに、より多くの団体がこういった活動に参加できるようなサポートをしていく必要があると思っております。

14ページ、「(5)市民力を生かし育む学びの都づくり」でございます。さまざまな地域資源の発掘、博物館系の施設の連携を始めとしまして、人々の価値観が質の向上というところに向かっておるとの認識でございますので、その中で学習、遊びを通じたさまざまな学びの環境づくりを進めてまいりたいと考えてございます。仙台には大学、企業、多くの若者が集まる環境にございますので、若者たちの間でさまざまな知識・知恵を伝達し、変化の激しい社会を生きていくような力を培っていくことが重要と考えております。

基本的施策の でございます。「多様な学びの場の発掘・充実」ということで、市民センターを確認しまして、多様なニーズに対応した学びの場の機能の充実を図る必要があると考えてございます。博物館、科学館等の機能の充実、さまざまな図書資源の適正配置、ネットワーク化、動物園等記載してございますが、このほかにも地域にあるさまざまな学びの場を発掘し、連携していく必要があると考えてございます。

のところでございます、博物館連携、ミュージアムアライアンスのほかに、さまざまな歴史的・文化的資源の保全と積極的な発信等を地域団体、NPO、ボランティア団体等と連携しながら、こういったものを積極的に発信してまいりたいと考えてございます。

また、 にございます、地域のスポーツの振興、市民の健やかさを生み出す基本でございますので、こういったものに努めてまいるとともに、「市民の創造性を生かす文化芸術活動の振興」ということで、学都仙台の推進、さまざまな芸術作品に市民が親しめる機会の充実、創出等に努めてまいりたいと考えてございます。

16ページでございます。学都仙台でございますので、大学と連携してまちづくりを進

めたいと思っております。 にありますように、学生の皆さんも最近さまざまな地域活動、社会活動に参加する方が増えておられますので、そういった力を高めるとともにインターンシップ等、経済活動、新たな地域活動への参加といったさまざまな参加の機会を充実させてまいりたいと考えてございます。

最後 でございますが、「高齢者の知恵・知識を生かしたまちづくり」でございます。高齢化社会になりまして、さまざまなノウハウ・知恵を持った方が第2の人生の方に進んでおられます。こういった知恵や知識を地域社会に還元できるような仕組みづくりをさまざま進めていくことが、まちづくりにとっても重要だと考えているところでございます。

以上でございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

二つに関しましてご意見、ご質問等いただきたいと思います。

どうぞ、柳生委員。

柳生聡子委員

今の15ページの「市民の健やかさを生み出すスポーツの振興」というところです。以前いただいた資料で、小学生の6年生の体力テストの結果が載っていて、政令指定都市でどちらも最下位だったというすごくショックだったのですが、やっぱりライフステージに応じてスポーツを楽しむというので、小さい子からお年寄りまでいきいきと、生涯を通してスポーツを楽しむことができる環境づくりを強固に進める必要があるんじゃないかなと。個人的なことで大変恐縮ですが、私は転勤族だったので仙台は3か所目なんですけれども、千葉県と愛知県に長く住んでいたんですが、仙台はどうしてこんなに公園が少ないんだろうってすごく思っていて、子育てをしている今もそれは全然変わっていないんです。もっと走り回っていた記憶があるんです。さっき里山もミュージアムの一つとあったんですけれども、遊べる里山が一体どこにあるのかということを考えたときに、やはり広々と遊べる環境がなんでないのかなってすごく思っているので、またさっきの話を蒸し返して恐縮なんですけれども、ここでもやっぱり関連しているなと思ったのが一点と、もう一つは二つ目にあります温水プールの整備なんですけれども、旭ヶ丘地区の温水プールの整備というのはこれはなぜに旭ヶ丘地区なのかなと。足りないからということとそれは室内プールなんでしょうか。

梅内総合計画課長

現在進めておりますのは、旭ヶ丘地区での温水プールの整備。室内プールでございます。

柳生聡子委員

確か仙台市は各区に温水プールが整っているかと思うんですけれども、西公園プール

というのがなくなってしまって、子供用のちっちゃいプールがあって競技用のおっきいプールがあってという、屋外のあいったみんなが楽しめるような西公園プールに変わるものっていうのは、何か計画があるのでしょうか。

梅内総合計画課長

現時点で、具体的なそういった屋外プールの計画というものはないかと思います。

柳生聡子委員

難しいかと思うんですが、是非屋外プールが一つでもあるとすごくいいかな。全部区の室内プールって四角くてひたすら泳ぐだけで、何も学べないと思うんです。例えばひょうたん型のプールで、そこに橋が架かってたり滝があったり、すごく理想論ですけども何か行ってみたくなるような、何かちょっとこうミュージアムっぽいプールとか何か工夫ができないかなって、すごく漠然となんですけど。全部四角くて何か行きたいと思うんでしょうかということなんです。なので、もし今後新しく施設をリニューアルするとか新設するとなった場合に、そういった学び、遊びの視点も盛り込んでいただけるといいかなと思いました。

小松洋吉部会長

なるほどね。ありがとうございました。

今すぐは難しいでしょうから。

どうぞ、針生委員。

針生英一委員

13ページのところなんですけれども、「区役所と市民センターが一体となった地域支援体制の構築を進める」ということが書いてあるんですけど、全体的に市民センターが区役所の下についてまちづくりを担っていくという形になると、社会教育の位置づけというかその辺が全体的にちょっと薄まってきているなということをちょっと感じています。一つは社会教育の役割について、市民の中にはいろんなことを学んでそれで満足するというタイプの市民の方も非常に多いと思いますけれども、学んだことを地域で生かしていくという循環をまちづくりの中でつくっていかないといけないので、そのところをきちっと書いていくべきかなと思っています。そういった部分に社会教育とそこで学んだことを地域で生かしていく、それがまちづくりにつながっていく、そういうための市民センターの位置づけということをきちっと書き込む必要があるかなと思っています。

もう一つは、地域にあるのは市民センターと後やっぱりどこにでもある学校ですね、学校と市民センターの連携というのはやはり地域づくりの中で一つの核になるんじゃないかと我々は思っていて、例えば市民センターがそういう地域支援ということで動き出すと、そこを通じて子供たちが地域を知るきっかけづくりになる。あるいは地域の大人たちが子供たちのためだったら一肌脱ごうよという、やっぱり地域の大人たちは多



いと思うので、そういった部分でそのまちづくりにつなげていく一つのきっかけづくりにしていくという意味では、市民センターと学校の連携というのを戦略的にきちっと入れていった方がいいのではないかと。今これ全然できていないですね。我々の地域に戻ると市民センターとはかかわっているんですけども、今の市民センターの役割では全く足りなくて、そういった部分でやっぱり市民に一番近い部分での拠点施設ですから、市民センター多核というのを非常に重要と思ってしまして、そういった意味では地域拠点としてのあり方といいですか、そして社会教育との連携の仕方、学校教育との連携の仕方、その辺はやはり戦略的に必要ではないかと思っております。

小松洋吉部会長

市民センターがですね。なるほどね。市民力をはぐくむというのと地域づくりというのと、今の針生委員の意見は大切な点であろうと思います。今すぐどうしろということとはちょっとご無理でしょうけども、戦略的にという言葉が出ましたけれども、どれだけ書けるかは分かりませんが、ご検討いただければいいのではないかなと思います。大変重要なところだろうと思います。

どうぞ、内田委員どうぞ。

内田幸雄委員

そういう意味で皆さんの先程の議論から出ているように、話を聞きながら市民力っていう言葉が出ていて。もう一回市民力という言葉をしっかりとらえる部分が何かやっぱり必要なのかなと。便利な言葉だからこそ、これはあるものを活用するのか、養う場面をつくるのかってなところをやっぱり全体で見ながら改めて感じていたところです。

それと併せて、私も教育振興基本計画にかかわらせてもらっておりますけれども、根本的な話になってしまうかもしれませんが、総合計画の下にいわゆる教育振興基本計画があるんですけども、こっちの方が教育振興基本計画よりよっぽど具体的な中身があるのかなって思うところがあるんです。ここでこれだけ固有名詞も出しながら具体的なことをつくりながら、この下の教育振興基本計画の中で抽象化した施策の方向性というつくりの印象を多少もっているところがあります。今の協働のところでもそうですし、先程の子育てのところでもそうですし、今の市民センターとか社会教育の話なんかもそうなんですけど、ちょっとそこら辺の総合計画の具体的な言葉を出しながらその下の振興計画で抽象化するという、ねじれ構造みたいなところを少し感じたところです。

小松洋吉部会長

今後、多分逆転すると思っています。

内田幸雄委員

細かいことですが教育振興基本計画の方ですと、例えば9ページ10ページあたりにちょっと戻るんですけど。9ページでいうと、例えば「動向と課題」のところの、先程企業という話もありましたけれども、二つ目の丸の「家庭、地域、学校の連携」っていう

書き方が「学校、家庭、地域」っていう書き方になっているとか、そういう細かいところなんですけれども、順番とかも実は大事なことのかなという感じがします。そういったところでこのぶら下がっている各計画、阿部先生にもさっきちょっと話したんですけども、障害の方も非常にあれをやりますこれをやりますって具体的に書かれているものが、その下でぶら下がるところでどういってくるかなというところが、仙台市の方でも全体ができたときにどう見えるのかなって感じるころでした。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。  
どうぞ。

山内企画調整局長

先程針生委員のご意見についても併せてお答えさせていただきますけれども、今回の構成についてはやはり審議会の中で横断的な視点をちゃんと重視すべきだというご意見と、市民力を重視すべきだというご意見を大きく受け止めた形で、これまで構成として入れていなかった重点的な取組の部分初めて強く打ち出しまして、その中で四つの重点政策と四つの経営方針ということで、横断的なテーマについて都市像も踏まえた形でまとめております。それで先程来いろいろご意見としていただいている流れといたしまして、その市民力とかミュージアムの位置づけ、この分野別計画でもきちんと取り込んでといういろいろなご指摘、この前もう一つの部会でも同じようなご指摘いただきまして、それをその中間の段階で修正できるか、いろいろ複雑に絡むっていう部分も確かにございましてそれを全部入れ替えていくと分野別計画は充実するんですけども、ちょっと時間的な面で間に合うかどうかということもございしますので、その辺は今後の検討とするか、中間案で反映できる部分は反映させていきたいと思っております。

先程の針生委員のご指摘でも、学校と市民センターの連携なり市民センターの位置づけの部分については、例えば先程の資料1の5ページ、 の環境づくりの中での書き込みですとか、あるいは15ページの地域政策の中で で各種団体間の連携強化の辺りでも市民センターと学校と、抽象的な話なんですけど、そういう意味合いでいろいろ連携を強めていこうという仕組みをどんどんつくっていこうという思いは全く同じでございまして、それをどういうふうに表現するかということについては、今後ちょっといろいろ練らせていただきたいと思います。

また、内田委員のご指摘にもございます、市民力の定義をどういうふうにするか、資料1の16ページの冒頭、市民力の部分で「さまざまな主体が『都市や地域における課題の解決や魅力の創出に自ら取り組もうとする市民の力』」を市民力ということではっきり定義させて、混乱しないように使っていこうと思っております。

梅内総合計画課長

補足でございまして、ただいまの資料1の15ページ(2)のところから市民力の定義というのが、今回基本構想でも市民力が大きなテーマになっておりますので、市

民力とは何かを定義するということがやはり大事だろうということで、いろいろ庁内でも議論いたしました。市民力と言いますと私的な経済活動から含めましてすべて市民力ということでございますので、(2)の冒頭にありますように、そういうさまざまな市民力、仙台の資産である市民力を評価していく、私的な部分を含めて評価していくことというのが大きな課題なんだろうと思ってございますが、とりわけ都市経営ということでこのページから始まります重点的な経営方針の中では、都市経営という面から考えたときに、16ページの冒頭にありますような「都市や地域における課題の解決や魅力の創出に自ら取り組もうとする市民の力」というものを今回経営方針を考えた上での市民力として定義しまして、市の計画だということも一つございますけれども、全体としてこういうような市民力を支える仕組みというのを少し大きく重点として取り上げてはどうかということで定義をしたものでございます。

また、先程他計画との関連ということがございましたけれども、例えば健やか子育てプランを昨年度に策定されておりまして、内田委員ご指摘の教育振興計画が現在同時並行的に作業が進んでおります。まあもちろん、私共教育部局、子育て部局と連携しながら分野別計画をつくっておるところでございますので、そちらの方と相違がないようにと努めておりますけれども、全体の中でそういう先行したもの、現在作業中のものの中でこういう分野別計画という一つにまとめたものをつくっていく中で、ある程度具体化を急ぐものが出てきたりして、現在の策定過程のところちょっとタイムラグがあるかなと。総合計画の進行を待って、少し計画の策定をこちらの進行を待っているというような計画もあると聞いておりますので、私共としてもそういうところにも役所の中の都合でございましてけれども配慮しながら進めているところがございまして、その点、関係部局と連携を強めて相違がないようにしっかりやっていただいきたいと思っております。

小松洋吉部会長

ねじれではなくてタイムラグだということです。

内田幸雄委員

できあがったものを見たときになんかねじれに見えるかなと。

水野紀子部会長代行

よろしいですか

小松洋吉部会長

どうぞ、水野先生。

水野紀子部会長代行

細かいことですが、13ページに成年後見制度の利用っていう書き込みがあるんですが、成年後見制度は相当お金がかかります。あんまり評価を私はしていなくて、これも県の事

業との関係でどのように書き分けられるのかよく分からないんですが、むしろ地域福祉権利擁護事業の方がずっと使いやすいシステムとして設計されているというところがございませう。更に高齢者のことを考えますと、もっといろんな生活の見守りみたいなものの方に力を入れられる方が、成年後見制度に結びつけたらそれで解決というようなものでは全然ないのが実情でございませう。

それから、県との関係で同じように書けるのか書けないのかよく分からないんですが、児童虐待のところでも今一番必要なのは児童相談所の人手、先程から先生のご意見があるんですが、それを担う人手をどのように育成するかっていうことが一番大切で、児童虐待でも、児童相談所の人手をどのように育成するかっていうことが今非常に全国的に頭が痛いことなんですけれども。昨日までガスや水道の仕事をしていた人がそんなところに行ったときに、いきなり児童虐待の対応ができるものではないんです。その維持費が問題になりますし、病理を抱えた人にどのように対応するかっていうようなことを知っていただかないといけないというようなことを、その助け合いのところからお考えいただく必要があるかと思ひます。また、児童相談所の問題も、もしここで市の問題ではないということで書き込めないのだったらそこはお任せいたしますけれども、そういう県などとの連携についてもできれば書き込んでいただければと思ひます。

小松洋吉部会長

二点ご検討いただきたいと思ひます。

だいぶ時間もおしておりますので、いかがでございませうか。ここの五つのことについてご説明、ご意見いただきましたですけれども、全体を通してこの中で皆さんから何かこの場で、限られた時間で大変恐縮ですけれども、是非というのがありましたらどうぞ。

樋口稔夫委員

先程からミュージアム都市という表現、この定義が普通狭義で使う一般的に使っているやつだと、美術館とか博物館とかそういった類のものをさしていますよね。仙台市全体をミュージアムという表現にしていると思うんですが、そういう表現が一番よろしい表現かどうかっていうのはちょっと分からないんですけれども。その辺がちょっと、私は大体そういうことを言っているんだと思うんですけど。仙台市全体をミュージアムにするのか。外から見た場合ですね、なんかミュージアムはあんまりないのになんでミュージアム都市って言っているんだろうなって言われると困るかなと思ひて、こういう話をしているんですけど。

足立千佳子委員

私も樋口委員がおっしゃったところで、さっきからずっと前の資料を見ながら、なんでこのミュージアムっていうところが、結構今回ボリュームがたくさんあるんだけれども、市民にすんなり受け入れられる言葉なのかどうかとか、ミュージアムって言ったときの定義がどこまで入れるのかというようなところがすごく疑問に思っております。

#### 山内企画調整局長

この件については都市の魅力部会でもいろいろご指摘をいただいております。ただ、そちらの方では肯定的な見解もございまして、その基本構想の流れから市民力を生かしてという流れと、後は都市像自体、学び・支え合うという部分を今回重視していきたいという流れもございまして、その一つ目の都市像の学びの都という部分に対応させた形で学びというものを、その都市づくり、さまざまな政策分野につなげていくと。そういう観点での位置づけでミュージアム都市構想というものをもっと大きく入れ込んで、それ自体を都市のブランドに高めていくべきではないかと。こういったご指摘がいろいろ多く寄せられておりまして、このちょっとその辺の表現がまだはっきりしない部分もあるので、一回そういった方向で加筆修正をしていきたいと、今その作業を進めているところでございます。

#### 水野紀子部会長代行

ちょっとサポートしてもよろしいですか。

私、パリに留学していたことがあるんですけども、本当にまちなかにいろんな歴史が非常に重層的にありまして、その案内があったり、それからまちなかに毎日何回かの見学ツアーのコースというのがあるんですね。そういうので出かけていきますと、ガイドさんがここはこういう事があってここで著名人が倒れて死んだとかいろいろなこと教えてくれるわけですよ。そういうのも非常に楽しいパリの街、全体をこのまさにミュゼっていうかミュージアムにしているというところがあります。もし仙台がそんなふうには歴史をずっとさかのぼって、ここでこんなことがあってこんなまちだったんだっていうことが重層的に楽しめるようなまちになると、すごく楽しいなっていう気がして、ミュージアムという言葉、フランスのミュゼと同じこととすると相当広い概念ですので、ちょっと楽しいかなと私は思っています。

#### 小松洋吉部会長

足立委員、そういうことがありますか。

#### 足立千佳子委員

私は良いんですけど。

#### 柳生聡子委員

私も外から見たとき、観光とかそういった面で他者から見た仙台ミュージアム都市になったらすごく良いと思うし、都市の規模からいってもミュージアムがいくつかあるし、歴史的なものもいくつかあるしというところで、すごくタイミング的に良いかとは思いますが、はたして暮らしている市民は現実的にえーっていうのが感想だと思うんですが、したがって、それと並行して、外から向けミュージアム都市であり、地域の中の、おらほのミュージアム的な、すごくこう、そこも充実させていかないと他人事みたいになってしまう可能性があるなっていうのはすごく思いました。

小松洋吉部会長

これは総合計画です。

柳生聡子委員

そうですね。しかも結構走りだしてしまっていますよね。重点的なということで。これはこれで良いのかなと。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。いろいろ貴重な意見をいただきありがとうございました。

まだ意見はあると思いますが、ちょっと時間もおしていますので、こちら辺にさせていただき、後お気づきの点等ありましたら、是非メール等で事務局の方にご意見をお寄せいただきたいと思います。

都市の魅力のところに关しましては意見をいろいろとお持ちになると思いますが、この時間ちょっとご無理だと思いますので、お気づきの点、ご意見ありましたら、これも併せて事務局の方に意見をお寄せいただきたいと思います。

続きまして、資料3の第5章に「推進に向けて」というところがございます。これに移らせていただきたいと思います。

それでは事務局からご説明お願いいたします。

梅内総合計画課長

資料3についてご説明させていただきます。総合計画の推進に向けてということで記載したものでございます。昨日の都市の魅力部会でも少し指摘がございましたので、ちょっと記載を直さなければいけないところがあるんでございますけども、総合計画の推進に向けまして、実施計画、3年の計画期間のアクションプログラムをつくりまして、施策の着実な推進を図ってまいります。また、総合的な推進ということで、地域政策の重視という場合には特に強調されるかと思いますが、部局横断的な課題に多様に対応していかなければならないということでございますので、より一層そういうことを進めていく必要があると思ってございます。また、市民協働、市民参画のさまざまな手法の検討、施策評価のための目標の検討等を進めてまいりたいと思っているところでございます。以上でございます。

小松洋吉部会長

このところも計画の推進に向けてということで、大変重要なところでございます。皆さんからご意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。ご意見お持ちですか。

それでは、また、お気づきの点等ありましたらいつでも構いませんので、是非いただきたいと思ひます。

一応一通り、資料についての意見交換、協議は終わりにさせていただきましたが、最後に全体を通してこれまでのこと、あるいは関連することでも構わないと思ひます。

お気づきの点等ございましたら、是非ご発言いただければありがたいと思います。  
どうぞ、鈴木委員。

鈴木由美委員

細かなことで申しわけないんですけども、資料2の4ページなんですけど、「市民の健康づくりの推進」ということで、仙台にあるいろいろな公的な資源それから里山についての資源を生かしてということを考えてうえて、この市民の健康づくりに、ここに書いてある部分について割と積極的な健康づくりの施策が書いてあると思うんですけども、それ以外にももう少し広い意味での精神的な健康づくりという点で、仙台が有している大きな二つの温泉である秋保と作並温泉のもっと市民が親しみやすい活用の仕方っていう部分をこういう計画の中に入れて、もう少し市民の広い活用ができる施設の設備等の整備みたいなものも、できれば、私はこういう計画の長期的なものの中で考えていく上でやっぱり必要じゃないかなと思うんです。せっかくある大きな自然の恵みというものに近いにありながら、なかなか仙台市民が共有することができないということが割とあるんじゃないかなというふうに思います。他県だと割と安い、リーズナブルなお値段で割と1日いられるっていう温泉施設が結構あるんですけど、意外と仙台ってそういうものがなくて、これだけ大きな温泉街を抱えていながら、仙台市民に対するサービスのようものができるものが少ないということをやっぱりちょっと感じますので、これから長い目で見ていったときにやっぱり仙台市民が、そういうものを、やっぱり地元のもので利用できるっていうことがあるメリットは、精神的にも健康的にもすごく重要になってくるんじゃないかなと思うところが一つです。

それともう一つ、多分共生社会の構築というところにも関連してくると思うんですが、それよりも前にやはり多世代の人たちの交流の場っていうところがなかなか仙台市内においてないなっていうのが、仙台に暮らしていてすごく感じるところです。例えば、子育ては子育て、高齢者は高齢者というような形ですべてここも分けて書いてはあるんですけども、その分けて書いてあればその部分だけやってしまえばそれで良いのかっていうのではなくて、実際に私たちが暮らしているときに赤ちゃんもいればお年寄りもいてその中間層もいて、いろいろな形の生活がかかわり合いながら成り立っている部分があるんですね。したがって、そういう世代になったときに、同じ世代だけ集めて生活するっていうことじゃなくて、もっと大きく、人間のいろんな世代ともう少しかかわり合って生活していけるようなまちづくりの構想っていうものができたらというふうには思いました。

すいません、最後に言ってしまうて。

小松洋吉部会長

今後ますます多世代間の交流というものも大変重要なことだと思いますね。十分問題意識にはあると思いますので、ご配慮できることはお願いしたいと思います。

ほかにはいかがでございますか。まだまだ多分ご意見たくさんお持ちなんだろうけども。

それでは、本日のいろんないただいたご意見を踏まえて、事務局に修正ないしは加筆などをお願いしたいと思っております。

本日の審議の予定は一通り終わりましたけれども、参考資料が二つほどありますので、それについて簡単に説明願えればありがたいと思います。

それでは一つ、参考資料１、２の説明をお願いしたいと思います。

梅内総合計画課長

それでは参考資料の１と２につきまして簡単にご説明させていただきます。

参考資料１は起草委員会の方でご議論いただいております基本構想の中間案でございます。こちらにつきましては、先日起草委員会での議論を踏まえまして、最終的に大滝委員長のもとで字句の確認を行いまして、ここに参考資料１としてお示しした内容で27日の審議会の方へ提出することになってございます。「仙台の未来へ」、二番、今回の特徴でございます「仙台の未来を創る市民力」、「仙台の都市像」、そして「仙台の未来に責任を持つ都市経営」ということで、今回都市経営を一つ分離して、強く出しております。また「総合計画の推進」といった五つの取組になってございます。

また、参考資料２でございます。こちらは各区が主体となっておりまして区別計画でございます。これにつきましては審議会の方でご了承いただきましたとおり、現在区の関連する地域団体、地域の関係者、有識者のご意見を聞いた上で、策定を進めているものでございまして、ようやく各区の分が取りまとまって中間案に近づいてきたのかなという段階でございます。現計画の21プランですと、各区３ページ程度の薄い内容でしたけれども、今回は区の方で将来ビジョン、基本的な方向性、まちづくりの方向性等について独自で考え進めてきたものでございます。５区併せまして約40ページということで、非常に厚くなってきております。中には区独自の要望等ですとか、独自の地域団体の名称なども出てきて、特徴のあるつくりになってきているかなと思ってございます。正式なものにつきましては、27日の審議会でご報告をさせていただく予定でございます。後ほどご高覧いただければと思っております。

以上でございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

参考資料１の基本構想の中間案と、２は区別計画についてでございます。何かお気づきの点等ございましたら、ご発言いただいても構わないと思います。いかがですか。

それでは最後に今後の流れを確認しておきたいと思っておりますので、今後の流れについて、説明をお願いしたいと思います。

梅内総合計画課長

今後の流れについてご説明申し上げます。本日もたくさんのご意見をいただきまして誠にありがとうございます。昨日の都市の魅力部会での議論、本日のご議論を踏まえまして、市民の皆さまへ中間案として提示していくためのものをまとめてまいりたいと



思います。そして27日の審議会でお出ししたいと考えております。本日のご意見でもそうでしたけれども、字句の修正をしなければいけないもの、また、全体の構成にかかわるもの等、多様なご意見がございましたので、とりあえず27日にいったん中間案を取りまとめまして9月の市議会、そしてパブリックコメントや市民説明会、意見交換会の方へ提示していきたいと思っております。そこでのご意見を踏まえまして、10月、11月の部会で更に中間案の修正をしていければと思っているところでございます。

時間に限りがありますことから、本日のご意見を基に事務局で修正を行わせていただきまして、最終的に小松部会長の方にご確認をいただきまして内容を確定させまして、27日の審議会へ中間案としてご報告させていただきたいと考えておりますので、その点ご了承をお願いしたいと思います。

以上でございます。

## 5 閉会

小松洋吉部会長

今、今後の流れについてご説明がありました。もう一度修正の上で、細かい点など考えられると思いますけど、時間的な制約もありますので、いわゆる微調整的なところを一つ、ご一任にいただければありがたいと思っております。まあこれ中間案ですので、一つよろしく願いしたいと思います。それでよろしゅうございますか。

(はいの声あり)

ありがとうございました。それではこれで一切を終わらせていただきたいと思いますけれども、ほかに何かありましたら。

梅内総合計画課長

最後に先程ございましたとおり、次回の審議会は来週27日金曜日16時30分から、市役所本庁舎第1委員会室での開催となります。これから字句を修正しまして、部会長にご確認いただきますけれども、少し時間も厳しいところでございますので、資料送付が直前になるかもしれませんけれども、その点ご容赦願いたいと思っております。

以上でございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

大変膨大なところを、この限られた時間でということで、大変無理があったと思いますが、大変中身のある協議ができたと思います。大変ありがとうございました。

以上で終わらせていただきます。皆さんありがとうございました。